

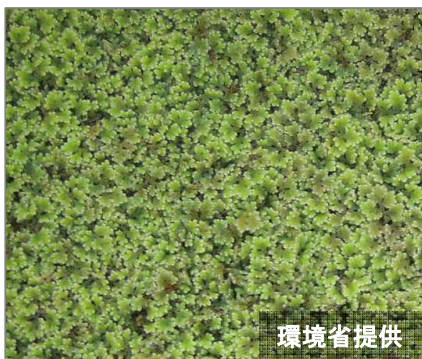
外来アゾラ類

Azolla spp.

重点対策種

サンショウモ科

別名：外来アカウキクサ



環境省提供

■形態：浮遊性の多年生草本。全体は円形からやや五角形で直径は5～30mm程度。ヒノキの葉に似る。茎は二又に枝分かれを繰り返して水面で水平に伸びる。葉は楕円で柄が無い。根は水中に沈み、枝分かれしない。

■生育環境：湖沼、水田、水路等

■原産地：アジア、アフリカ、北米～南米等

■侵入経路：合鴨の餌として合鴨農法に伴って侵入

■定着状況：定着済み(東部地区、西部地区)

■影響・被害：在来水生植物との競合・駆逐。河川や水路の流水阻害。開放水面を覆い、光を遮るため、溶存酸素や水温低下、水質悪化を引き起こす。藍藻と共生しており、富栄養化を引き起こす可能性がある。

■備考：国リスト：緊急対策外来種(No. 23)

■文献：②、③、④

ボタンウキクサ

Pistia stratiotes

重点対策種

サトイモ科

別名：ウォーターレタス



環境省提供

■形態：浮遊性の多年生草本。水面に水平か斜めに葉を広げて葉ボタン状になる。葉にはピロード状の短い毛を密集し水をはじく。花は小さく目立たない。茎は極めて短く、葉の間から走出枝を放射状に伸ばして先端に子株をつける。

■生育環境：湖沼、水田、河川、水路等

■原産地：南アフリカ

■侵入経路：観賞用に輸入されたものの遺棄

■定着状況：定着済み(東部地区)

■影響・被害：在来水生植物との競合・駆逐。河川や水路の流水阻害。開放水面を覆い、光を遮るため、湖沼の水温低下や水質悪化を引き起こす。

■備考：国リスト：緊急対策外来種(No. 35)、日本ワースト100

■文献：①、②、③、④

スパルティナ属

Spartina spp.

重点定着予防種

イネ科



環境省提供

■形態：抽水～湿生の多年生草本。高さは0.2～3m。根茎が地中を横走し、密集した単一の群落を形成する。花序全体は円錐型で長さ50cm程度になる。葉は線形で多肉質、黄緑色で鈍い光沢がある。葉の長さは50cmを越すこともある。

■生育環境：河口域、塩沼地、干潟等

■原産地：北米、ヨーロッパ等

■侵入経路：不明(船舶等に随伴して侵入した可能性が高い)

■定着状況：未定着(隣県分布：なし)

■影響・被害：河口域等に生育する在来植物との競合・駆逐。河川や水路の流水阻害。干潟を草地化し、干潟に生息する在来生物に影響を及ぼす。干潟の水質浄化機能の喪失による水質悪化を引き起こす。

■備考：国リスト：緊急対策外来種(No. 34)、世界ワースト100

■文献：①、②、③、④

オオフサモ

Myriophyllum aquaticum

重点対策種

アリノトウグサ科

別名：スマフサモ、ヌマフサモ



環境省提供

■形態：抽水性の多年生草本。根茎は赤紫色。水中や泥中を枝分かかれながら伸びて1m以上になる。水上の茎は緑色で10～30cm程度。茎の節には3～7枚の羽状葉が車輪状につく。小葉片は長さ3～5mmで10～20対。花は水上に広がる茎に1つずつつく。

■生育環境：湖沼、ため池、河川、水路等

■原産地：南米

■侵入経路：観賞用に輸入されたものの遺棄

■定着状況：定着済み(東部地区、中部地区)

■影響・被害：在来水生植物との競合・駆逐。河川や水路の流水阻害。水域内で繁茂することにより環境の改変や大量枯死による水質・泥質悪化を引き起こす。

■備考：国リスト：緊急対策外来種(No. 27)、日本ワースト100

■文献：①、②、③、④

オオバナミズキンバイ及び亜種

Ludwigia grandiflora (*L. grandiflora* ssp. *grandiflora*)

重点定着予防種

アカバナ科



環境省提供

■形態：浮葉～抽水～湿性の多年生草本。環境により葉の形態等が変化する。葉は互生し、地上茎の葉は長披針型から長円形。水中・水上葉は円形から倒卵形。花は黄色で直径3～5cm。花弁は5～6枚で先端がやや凹む。

■生育環境：湿地、湖沼、ため池、河川、水路等

■原産地：南米及び北米南部

■侵入経路：観賞用に輸入されたものの遺棄

■定着状況：未定着(隣県分布：兵庫)

■影響・被害：在来植物との競合・駆逐。漁業や水利用への障害。水域内で繁茂することによる在来水生生物の生息への影響。絶滅危惧種のみズキンバイなどとの遺伝的攪乱。

■備考：国リスト：緊急対策外来種(No. 26)

■文献：②、③、④

アレチウリ

Sicyos angulatus

重点対策種

ウリ科



環境省提供

■形態：つる性の一年生草本。茎は粗い毛を密集したつるで巻きひげは3～4つに分かれる。他のものに巻き付いて広がる。葉の形は五角形で3～7回浅く裂ける。葉にはざらつきがある。花序は直径1cm程度で色は黄白色。花序は葉の脇から出る。

■生育環境：林縁、荒地、道端、河川敷等

■原産地：北米

■侵入経路：輸入大豆に混入して侵入

■定着状況：定着済み(県内全域)

■影響・被害：在来植物との競合・駆逐。樹木等からみつくことによる生育阻害。大量繁茂による耕作地や造林地への被害。葉や茎、果実に細かいトゲがあり衣類の上からでも刺さり、けがをすることがある。

■備考：国リスト：緊急対策外来種(No. 25)、日本ワースト100

■文献：①、②、③、④

外来モウセンゴケ類

Drosera intermedia、*Drosera* spp.

重点定着予防種
モウセンゴケ科



重井薬用植物園 片岡博行提供

■形態：湿性の多年生草本で食虫植物。高さは15cm程度。茎は短く、地表付近から葉を放射状に出す。葉身はさじ形で長さ10mm、幅5mm程度。葉身には虫を捉えるための繊毛が多数つく。開花時期は8月～10月。直径4mm程度で白色の5弁花をつける。

- 生育環境：湿地等
- 原産地：北米、ヨーロッパ
- 侵入経路：観賞用に輸入されたものの遺棄
- 定着状況：未定着(隣県分布：岡山)

■影響・被害：湿地に生育する在来植物(在来モウセンゴケ類等)との競合・駆逐。在来モウセンゴケ類との交雑による遺伝的攪乱。防除作業実施(抜きとり、踏みつけ)による湿地生態系への影響。

- 備考：国リスト：重点対策外来種(No. 42)
- 文献：①、②、③、④

ナガエツルノゲイトウ

Alternanthera philoxeroides

重点定着予防種
ヒユ科



環境省提供

■形態：抽水～湿性の多年生草本。茎の長さは0.5～1m以上になる。太さは4mm程度で中は空洞。葉は対性で無柄(あっても1～6mmと短い)。葉の縁には細かい鋸歯がある。小さな花が集まって球状の花序(12～16mm程度)を形成する。花の色は灰白色から白色。

- 生育環境：湖沼、河川、水路、水田等
- 原産地：南米
- 侵入経路：観賞用に輸入されたものの遺棄
- 定着状況：未定着(隣県分布：兵庫、島根、岡山)

■影響・被害：湖沼や湿地に生育する在来植物との競合・駆逐。河川や水路の流水阻害。水面を覆うように繁茂して光を遮り、水生生物の生息環境に影響を及ぼす。

- 備考：国リスト：緊急対策外来種(No. 24)
- 文献：①、②、③、④

オオカワヂシャ

Veronica anagallis-aquatica

重点対策種
オオバコ科
別名：オオカワヂサ



環境省提供

■形態：抽水～湿性の多年生草本。茎は土中を横走する地下茎から真っ直ぐまたは斜めに伸びて高さ1mにまでなる。茎に毛はない。葉は対生で無柄。葉の形は楕円形か披針形。花は鮮やかな青紫色で4枚の花弁をもつ。茎上部の葉の脇に総状花序をつける。

- 生育環境：湿地、河川、水田、水路等
- 原産地：ヨーロッパ～アジア北部
- 侵入経路：不明
- 定着状況：定着済み(県内全域)

■影響・被害：河川・湿地等に生育する在来植物との競合・駆逐。在来種のカワヂシャとの雑種形成(ホナガカワヂシャ)。

- 備考：国リスト：緊急対策外来種(No. 29)
- 文献：①、②、③、④

エフクレタヌキモ

Utricularia cf. platensis

重点定着予防種

タヌキモ科

写真なし
(写真ACからDL可能)

■形態：浮遊性の多年生草本で食虫植物。直径2mm程度の茎を盛んに分枝し立体的に繁茂する。葉は長さ2~10cmで二又に複数回分枝し、多数の捕虫囊をつける。花は鮮やかな黄色で下唇弁は3裂する。基部は膨らんで2裂し、赤褐色の模様がある。

■生育環境：湖沼、ため池、湿地等

■原産地：北米東部

■侵入経路：観賞用に輸入されたものの遺棄

■定着状況：未定着(隣県分布：兵庫)

■影響・被害：在来水生植物との競合・駆逐。河川や水路等の流路阻害。大量に繁茂することによる水生生物の生息環境への影響。

■備考：国リスト：重点対策外来種(No. 62)

■文献：①、②、③、④

オオキンケイギク

Coreopsis lanceolata

重点対策種

キク科



■形態：多年生草本。茎は根本付近から束上に生える。根本の葉は細長いへら状で成長につれ3~5枚に分裂し、茎につく葉の葉柄は短く対生することが多い。舌状花と管状花から直径5~7cmの頭状花を形成する。舌状花・管状花は黄褐色。

■生育環境：河川敷、道端、海岸等

■原産地：北米

■侵入経路：観賞用・法面緑化用に全国で植栽

■定着状況：定着済み(県内全域)

■影響・被害：河川敷等に生育する在来植物との競合・駆逐。

■備考：国リスト：緊急対策外来種(No. 30)、日本ワースト100

■文献：①、②、③、④

ミズヒマワリ

Gymnocoronis spilanthoides

重点定着予防種

キク科



■形態：抽水性の多年生草本。茎は高さ0.5~2m程度。葉の形はヒマワリに似る。葉は対生し、根元から先に向かうにつれて幅が細くなる。葉の縁には低い鋸歯がある。分枝した茎の先に100~150個程度の小花が集まってできた白い頭状花をつける。

■生育環境：湖沼、河川、水路等

■原産地：中央~南アメリカ

■侵入経路：観賞用に輸入されたものの遺棄

■定着状況：未定着(隣県分布：兵庫)

■影響・被害：在来水生植物との競合・駆逐。水路等の流路阻害。大量に繁茂することによる水生生物の生息環境への影響。

■備考：国リスト：緊急対策外来種(No. 31)

■文献：①、②、③、④

ツルヒヨドリ

Mikania micrantha

重点定着予防種

キク科

別名：コバナツルギク

写真なし
(写真ACからDL可能)

■形態：つる性の多年性草本。茎は細長い円柱形。節部から発根、分枝して他物に絡み付いて林冠を覆うようにして広がる。葉は4～15cmで心形～三角状広卵形。葉縁は全縁～粗い鈍鋸歯。花頭が密集した白色～緑白色の散房花序をつける。

■生育環境：畑地、樹園地、牧草地等

■原産地：熱帯アメリカ

■侵入経路：不明

■定着状況：未定着(隣県分布：なし)

■影響・被害：在来植物との競合・駆逐。茶園、果樹園、牧草地等への被害。

■備考：国リスト：緊急対策外来種(No. 36)、世界ワースト100

■文献：②、③、④

オオハンゴンソウ

Rudbeckia laciniata

重点対策種

キク科



■形態：多年生草本。茎は高さ0.5～3mで上部で分枝する。葉は互生で下の葉には長い柄があり、5～7枚に分かれる。上の葉の柄は短いか無い。他のキク科同様、舌状花と管状花から直径6～10cmの頭状花を形成する。舌状花は黄色で管状花は黄緑色。

■生育環境：道端、荒地、河原、湿原等

■原産地：北米

■侵入経路：観賞用に輸入されたものの遺棄

■定着状況：定着済み(東部地区、日野地区)、定着不明(西部地区)

■影響・被害：河原等に生育する在来水生植物との競合・駆逐。

■備考：国リスト：緊急対策外来種(No. 32)

■文献：①、②、③、④

ナルトサワギク

Senecio madagascariensis

重点定着予防種

キク科



■形態：一年～多年生草本。茎は多数分岐して大きな株になる。葉は互生で先の尖った線状披針形～披針形。柄はなく、不揃いの鋸歯を持つ。直径2～2.5cm程度の鮮黄色の頭状花序を上向きに多数つける。舌状花は通常13枚。

■生育環境：海辺の埋め立て地、空き地等

■原産地：アフリカ(マダガスカル)

■侵入経路：緑化資材に混入して侵入

■定着状況：未定着(隣県分布：兵庫、岡山)

■影響・被害：在来水生植物との競合・駆逐。有毒成分を含むため、牧草地等に侵入した場合は家畜に中毒症状を発生させる危険がある。また、家畜の乳汁を通じて人的被害が起きる可能性がある。

■備考：国リスト：緊急対策外来種(No. 33)

■文献：①、②、③、④

ブラジルチドメグサ

Hydrocotyle ranunculoides

重点定着予防種
ウコギ科



■形態：浮葉～抽水性の多年生草本。茎の長さは1 m以上、無毛で太さは2～5mm。節から1～数枚ずつ葉と多数の根を出す。葉は直径3～7cmの多肉質の円形、つけ根はハート型にくぼむ。表面には光沢がある。

■生育環境：湖沼、ため池、水路等

■原産地：南米

■侵入経路：観賞用に輸入されたものの遺棄

■定着状況：未定着(隣県分布：兵庫、岡山)

■影響・被害：在来水生植物との競合・駆逐。水路等の流路阻害。大量に繁茂することによる水生生物の生息環境への影響。

■備考：国リスト：緊急対策外来種(No. 28)

■文献：②、③、④